

愛知県神社関係者大会



11月14日、県下の神職・氏子総代・敬神婦人会会員など1590名の参加のもと、愛知県神社関係者大会が蒲郡市民会館にて開催された。

まず神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、牧野武彦愛知県神社庁副庁長の開会の辞に続いて功労者表彰が行われ、神宮大麻表彰、恒例表彰など100名余がその栄に浴した。

小串和夫愛知県神社庁長挨拶、県神社総代会会長挨拶（代理副会長大森一人氏）、神社本庁統理告辞（代理神社本庁総長田中恆清氏）、神宮大宮司祝辞（代理神宮祢宜相見和紀氏）、蒲郡市長稲葉正吉氏祝辞、来賓紹介、祝電披露、次いで議事として大会宣言案を畔柳吉生愛知県神道青年会会長が朗読し、全会一致で決議された。また服部憲明神道政治連盟中央本部総務会長からは出席者に対し、有村治子参議院議員支援の呼び掛けも行われた。

続いてジャーナリストの有本香講師より『中国の「日本買収」計画～日本は中国に買われ、支配されるのか？』と題する講演が行われた。有本講師は、中国資本によって日本の広大な森林や総領事館の土地が買収されているが、現状ではわが国の規制は緩く、所有者が誰なのかすらも把握しきれていない事を指摘。そして地元行政も国際交流と称しながら、実際は完全に中国資本に丸め込まれているように見受けられると批判し、日本の主権が及ばない広大な土地が増えれば、そのまま実効支配に近い状況が起こりかねず、いざという時に何も備えない国になってしまうので、あらゆる状況を想定して警戒していかなければならないと開陳した。

講演終了後、服部憲明神道政治連盟中央本部総務会長の先導により聖寿の万歳を三唱、白井清夫愛知県神社庁副庁長の閉会の辞をもって大会が終了した。